



城西国際大学

地域連携推進センター通信

Center for Regional Collaboration

発行 城西国際大学 地域連携推進センター 千葉県東金市求名1番地
発行人 所長 井上映子

発行日 2021年3月25日

Vol. 1



地域連携推進センターとは

城西国際大学地域連携推進センターは、地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、本学に設置されたCOVID-19対策本部の感染拡大防止の対応を遵守し各種地域連携活動を行いました。

Contents

- ① 地域連携推進センター紹介・三者連携事業
- ② 域学共創プロジェクト
- ⑤ 専門職連携教育
- ⑨ 葉草図鑑・2020年度コミュニティカレッジ講座
- ⑩ 城西エクステンション・プログラム
- ⑪ ライフスタイル動画
- ⑫ 2020年度 地域連携活動



三者連携事業

保健事業における「外国人家族支援」に関する連携協定

城西国際大学は、東金市、医療翻訳事業を手掛けるメディフォン株式会社（東京都港区）と連携協定を結び、増加傾向にある東金市在住の外国人およびその家族の支援に取り組んでいます。特に、出産・育児に直面している外国人のサポートに注力し、出産時や子育てに必要な情報や日常生活に関する案内をやさしい日本語、やさしい英語やイラストで伝えることで、安心して暮らしてもらえる環境づくりを産官学で目指します。

新型コロナウイルスの感染拡大で不安な日々を送る外国人及びその家族に対し、3者の強みを生かしたサポートを強化するとともに、本学の学生や留学生が地域の街に親しみ、地域活性化に貢献できることを期待しています。

2020年度は看護学部、福祉総合学部、国際人文学部、国際教育センター、地域連携推進センターに所属する教職員と学生が協力して、外国人向けの母子手帳の副読本の完成に取り組んでいます。



域学共創プロジェクト

『ケア機能をもつ地域づくり』

— withコロナ時代の多世代交流「オンライン高齢者サロン」—

看護学部 1年生：6名
 看護学部 2年生：3名
 担当教員：井上映子（看護学部）
 丸山あかね（看護学部）



【活動概要】

看護学部は、2015年度より地域高齢者の健康長寿を願って高齢者の方々とゼミ学生で「高齢者サロン」を開催しています。今年度は域学共創プロジェクトとして看護学部ゼミ生9名が東金市田中地区において実施するにあたり、新型コロナウイルス感染禍で行う高齢者サロンの在り方を学生、教員、田中地区の高齢者サロン運営者と話し合いを重ね、withコロナ時代の「オンラインでつながる高齢者サロン」としました。

7月6日から12月25日までに計6回行われた、高齢者のフレイル予防を視野にいたった新しい高齢者オンラインサロンでは、東金市高齢者支援課と健康増進課保健師、東金市食生活改善協議会、JIU地域連携推進センター職員の協力の下、新型コロナウイルス感染を防止する対策を講じながら、学生はミニ健康講座、千葉特産レシピ紹介、レクリエーション、体操などを実施しました。

回	開催日	高齢者	東金市関係者	交流内容
1	7/6	13名	1名(高齢者支援課)	・サロン参加者と学生の自己紹介 ・「感染症対策講話」 ・体操 ・ジェスチャーゲーム
2	9/28	12名	1名(高齢者支援課)	・学生生活紹介 ・「手洗い講座」と「千葉特産品レシピ紹介」 ・体操
3	10/2	14名	1名(健康増進課保健師) 3名(東金市食生活改善協議会)	・「手洗い講座(東金市食生活改善協議会)」 ・東金市保健師による健康体操 ・「感染講座」と「千葉特産品レシピ紹介」 ・クイズレクリエーション
4	10/26	15名	1名(健康増進課保健師)	・「認知症予防の食事」と「千葉特産レシピ紹介」 ・体操 ・ふれあいクイズ
5	11/9	16名	4名(高齢者支援課1名、健康増進課保健師3名)	・「歯磨き、入れ歯のお手入れ講座」 ・「千葉特産レシピ紹介」・体操・お口の体操&お口クイズ
6	12/25	18名	4名(高齢者支援課1名、健康増進課保健師3名)	・「日光浴の講座」 ・体操 ・クリスマス会 ・ビンゴゲーム&クリスマスカード交換





域学共創プロジェクト『道の駅と大学連携』

担当教員：内山達也(観光学部)、金子祐介(環境社会学部)

本プロジェクトは、本学観光学部が、国土交通省が主管する「道の駅と大学連携(国土交通省主幹)」プロジェクトとして関わってきた活動の一つです。

本年度は、域学共創プロジェクトとして、環境社会学部の4名の学生を加えた31名の学生で協同し、自転車を活用した観光(サイクルツーリズム)を通じて、「道の駅」を拠点とした地域活性化に取り組みました。

とくに、今回のサイクルツーリズムを通して参加学生が考えた自転車の観光におけるメリットは以下の3点です。

- (1)自転車は、車よりもゆっくりとした速さでまちを巡ることができるため、地域内での回遊性を高めることができる。このことは、観光者の滞在時間延長につながり、結果として地域経済にも影響を与えるものと考えた。
- (2)スポーツ型観光として健康促進にもつながる。また、自転車は日常の移動手段でもあるが、より積極的にスポーツとしての体験的価値を提供することで、観光客だけでなく、地元住民に対しても自転車を利用した「スポーツによる健康効果」を提唱できる。
- (3)そして、排気ガスを出さず、地球環境への影響がないということである。これは、SDGs(7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、11「住み続けられるまちづくりを」)にもつながるものであり、環境への配慮は、これからの観光においても重要な視点となる。

以上の自転車を活用した観光の特徴に即し、「道の駅」を地域観光、地域振興の拠点として捉えることで「パークアンドライド」を啓発し、ゆっくりとした時間を過ごす観光を提唱したいと考えました。これは、コロナ禍である現在に求められている「これからの観光」としてのマイクロツーリズムであると考え、学生たちはサイクルツーリズムによる観光イベントの企画を行いました。

イベント自体は、上記の考えのもとで、参加者各自が全長31kmのコース上に5~7km間隔で設けられた特定のエリアにおいて、印象に残った地域の特色を撮影してもらう参加型イベントとして2020年12月13日に鴨川市で開催しました。撮影した写真は、専用のアプリを通して情報共有し、更なる地域の魅力を再発見することを促すために道の駅・鴨川オーシャンパークで展示会も実施しました。また、本プロジェクトを支援してくださったウェルネススポーツ鴨川様の配慮により、南房総エリアでサイクルツーリズムイベントを実施している各団体によるオンラインシンポジウム「房総サイクルサミット2021」にて報告を行うこともできました。

しかし、今回は、コロナ禍ということもあり、イベント自体は、企画をした学生たちによるモニターツアーとなってしまったので、次年度は、必ず、参加者を募って実践してみたいと考えています。

執筆者：環境社会学部3年蜂谷主



大正製薬株式会社様に協賛いただいた、リポビタンjellyを持って記念撮影



ウェルネススポーツ鴨川様に指導いただきながら実施したモニターツアーの様子

道の駅プロジェクトに関する記事はコチラ





域学共創プロジェクト『心食体地』

担当教員：鈴木明子(看護学部)、倉田新(福祉総合学部)、多田充(環境社会学部)

本プロジェクトでは私たちの身体が自然環境と密接な関係にあり、健康の維持・増進のためには環境問題の克服が必須であることを学習しました。廃棄物問題(海洋プラスチック問題)や食料の生産基盤としての自然環境について学習し、グループに分かれて海岸清掃活動を兼ねた海の漂着物調査(亀田海岸、月浜海水浴場、大洗サンビーチ)や野菜の栽培、森林環境の整備・林産物の生産といった実践的活動を実施しました。プロジェクト参加学生の感想を抜粋して紹介します。

○日本の海岸の漂流物を調べたり、環境について学びました。ゴミが適切に処理されない事で、環境破壊へと繋がっていき、なおかつそれらが微細なもの(マイクロプラスチック等)へと変化していくことで、巡り巡って我々の身体の健康へも悪影響を及ぼすことがわかりました。(看護学部2年)

○私たち自身が、地球という環境を汚している原因であることに気づかされました。そして、今回拾ったゴミは生活を豊かにしている一部であることにも気づきました。今回の活動を通して学んだ、リサイクルやMy〇〇を自ら積極的にを行い、地球を守っていきたいと感じました。(看護学部1年)

○心食体地のゼミを受けて環境について知ることが出来ました。私は今回の活動を通じて、今自分たちに出来ることは何か感じる事が出来るような活動の機会を増やしていきたい、と考えるようになりました。(福祉総合学部1年)

○最初はゴミ拾いをするのが目立つので恥ずかしいと感じたが、30分程経過した頃にはその感情もなくなり、作業するのが誇らしいとまで思いました。(環境社会学部4年)



域学共創プロジェクト

『田間物語：田間リレーマラソン盛り上げ隊』

担当教員：酒井健介(薬学部)

本プロジェクトは東金市市民提案型協働事業として、田間地区まちづくり協議会が実施する「田間物語：田間リレーマラソン」に大学・学生が参加するプロジェクトです。田間リレーマラソンは、『住民主体による「リレーマラソン」を通じた健康づくりとまちづくり～世代間交流と産官学協働による取り組み～』として平成27年度より毎年開催されており、本学関係

者はマラソンランナーや大会ボランティアとして毎年参加しております。令和元年実施の「田間物語 第5章：田間リレーマラソン」では、域学共創プロジェクト「田間物語：田間リレーマラソン盛り上げ隊」として、学生たちがリレーマラソン実行委員会メンバーとして参加しました。この令和元年の事業内容は、日本公衆衛生協会による**衛生教育奨励賞**を受賞しました。



第2章(平成28年度実施)の集合写真



地域のさまざまなボランティアで運営される

城西国際大学 専門職連携教育

JIU-style IPE99 (Interprofessional Education 99)

専門職連携教育委員会 委員長 中村 洋

IPE99は、地域で必要とされる医療福祉人材を育成することを目的に、城西国際大学 専門職連携教育運営委員会が提供する医療福祉系三学部による専門職連携教育プログラムです。

高齢化が進む日本では「医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した生活を続けることができること」が求められています。医療と福祉が継ぎ目なく提供される地域づくりに重要なのが、様々な対人支援専門職が連携し協働できること、専門職同士の顔が見える関係を作ることと言われています。そこで、学生時代に専門を超えて関係性を作る経験を提供するのがIPE99です。

IPE99では異なる学部学科の学生が同じ題材を学び討論することを通して、「対人支援専門職としての共通点」「対象者への向き合い方・視点・着眼点の違い」「他職種の専門性」に気付き、「自職種の専門性」を再認識し、「関係構築や意見調整」を経験し、連携・協働に必要な能力を身につけます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、患者講演会の実施が叶いませんでした。しかし、三密を回避するためにオンライン方式に変更し、専門職講演および創作事例WS、模擬事例検討WSを実施致しました。さらに実践IPEは実地研修先及び大学で綿密な感染症対策を講じ対面で実施することができました。次頁以降に活動の記録を記しますので、ご意見などお寄せ頂けましたら幸いです。地域の皆様のご意見を頂きIPE99をより良いものにしていきたいと考えております。

IPE99の学びは地域の皆様のご支援・ご協力により成り立っています。専門職講演では地域の中で対人支援を行っている専門職の方々にご登壇頂き体験談や矜持をお話し頂いております。また実践IPEでは地域に出て実地研修を行います。施設だけでなくご自宅を訪問する機会も頂いております。この場をお借りして、皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。今後とも、ご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



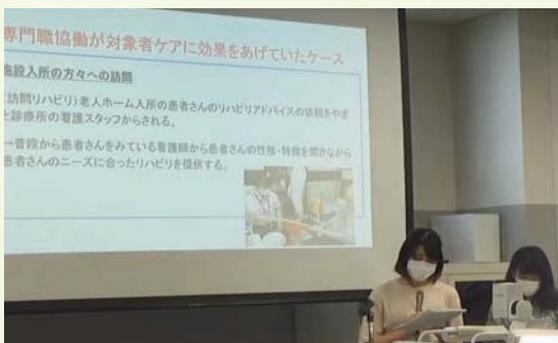
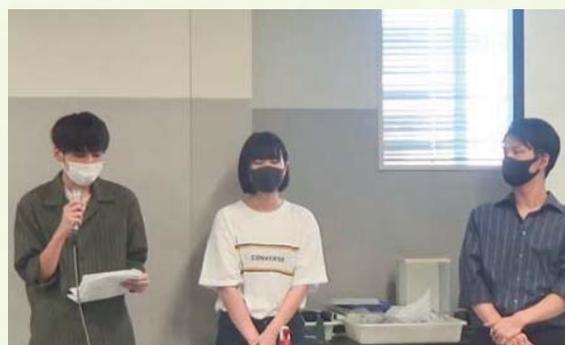
IPE99プログラム2020

STEP1：患者講演会、創作事例ワークショップ

STEP2：専門職講演、模擬事例検討ワークショップ

STEP3：実践IPE





IPE99 Step1

創作事例ワークショップ

テーマ『共有と尊重：対象を理解する』

IPE99 Step2

模擬事例検討ワークショップ

テーマ『主張と調和：専門職を理解する』

【目的】

創作事例WS

事例を自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個性とは何か』について考える

模擬事例検討WS

事例に対する支援の道筋を探るプロセスを疑似体験し、自職種の特徴について考える

【到達目標】

創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 多数の個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り『個性とは何か』について考察できる。

模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

【受講生】

福祉総合学科2年生（5名）、理学療法学科3年生（79名）、看護学部3年生（7名）、薬学部3年生（91名）

【スケジュール】

創作事例WS

7月3日（金）～10日（金）
：オリエンテーション、事例創作（個人課題）

模擬事例検討WS

7月10日（金）～17日（金）
：オリエンテーション、支援計画作成（学科WS）
7月24日（金）～31日（金）
：支援計画案の共有（学科混合WS）

【担当教員】

森山拓也（福祉総合学部）、横井悠加（福祉総合学部）、安齋紗保理（福祉総合学部）、井上映子（看護学部）、島村龍治（看護学部）、熊谷玲子（看護学部）、溝口優（薬学部）、中村洋（薬学部）

【受講生の声】

- 今回、初めて1つの事例について学部ごと・学部混合それぞれでグループワークを行い意見交換をするという学習をしたことで、各学部の特徴や考え方を知るとともに自分が所属する“看護”という領域について改めて気づき考えさせられる点多々あった。
- 他職種が持つ視点と自職種との共通点と相違点を知り、主治医との連携の重要性などの見落としていた部分、自分たちに足りない知識など様々なことを知る機会となった。他職種と関わる際に、専門知識の説明がとても難しく、他職種だけでなく患者やその家族に対してわかりやすく説明する能力も身に着ける必要があるということも改めて知ることができた。

【プログラムを終えて】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、グループワークを対面で行えず、オンラインで実施しました。対面よりも意見交換がしにくい環境であっても、各自学生が工夫を凝らしディスカッションを行うことができました。この経験が将来の多職種連携に活かすことを期待しています。



イメージ写真

IPE99 Step2 | 専門職講演

テーマ『主張と調和：専門職を理解する』

【目的】

専門職を理解する

【到達目標】

- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や、他職種から求められているものについて理解する
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え、理解する

【受講生】

福祉総合学部（100名）、看護学部（110名）、薬学部（120名）

【実施日時及びスケジュール】

実施内容：下の表のとおり各専門職による動画を配信しました。学生は視聴した動画についてリアクションペーパーを作成、リアクションペーパーを学生同士が相互閲覧することで専門性の異なる多職種との共通点と相違点を検討しました。

【担当教員】

篠崎良勝（福祉総合学部）、橋本理子（福祉総合学部）、安齋紗保理（福祉総合学部）、井上映子（看護学部）、中村洋（薬学部）、奥山恵美（薬学部）、北村昭夫（薬学部）

【スケジュール】

日 時	専 門 職	講 師
6/ 5 ～6/11 配信	理学療法士	窓場勝之先生（城西国際大学）
6/12～6/18 配信	介護福祉士	片岡信明先生（ゆりの木苑）
6/19～6/25 配信	社会福祉士・精神保健福祉士	赤堀久里子先生（NPO法人リンク）
6/26 ～7/2 配信	看護師	小柴千鶴先生（さんむ医療センター）
7/ 3 ～7/9 配信	薬剤師	笹原将生先生（ササハラ薬局）
7/10～7/16 配信	ケアマネージャー	井上淳子先生（九十九里園）



イメージ写真

【受講生の声】

- 共通点は、多職種連携を行うことであると思う。一人ではできないことでも多職種と連携することによって、より良い支援・情報提供を行うことができる。多職種連携を行うことによって、一つの専門職だけでは出てこなかった制度やサービス方法が検討できる。
- 専門職が大切にしている患者・利用者の尊厳を尊重し、一人一人に適した対応をすることは、すべての専門職に共通して大切なことであると思う。
- 福祉職は社会面・精神面でのサポートがほとんどである。看護師の業務内容において主となるのは医療行為になるのかもしれないが、患者さんの精神面をサポート、ケアする事も重要な業務の1つである。看護師・福祉職共に対象の方への精神面でのサポートをする業務があるという事が共通点だと考える。
- 同じ職場の職員や他職種に説明できるように整理して、患者様に合った支援を考えて多職種との必要な情報の共有や適切支援体制を整えていくことができるのが専門性の共通点であると思う。

【プログラムを終えて】

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から動画配信での実施となりました。各現場においても事態のご対応に追われている中、動画撮影にご協力をいただきました講師の先生方に心より御礼申し上げます。講師の先生方の熱量は動画からも学生たちに伝わったことがリアクションペーパーから読み取れました。

IPE99

Step3

実践IPE

テーマ『地域の医療福祉の場でチームケアを実践する』

**【目的】**

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ

【到達目標】

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する

【受講生】

福祉総合学部4年生(5名)、
看護学部4年生(7名)、
薬学部5,6年生(8名)

**【スケジュール】**

- 事前学習 8月17日(月)
：チームビルディング、事前調査など
- 実地研修 8月18日(火)～19日(水)
：在宅訪問、施設訪問など
- 事後学習 8月21日(金)
：振り返り、実地研修での学びの発表

【実地研修先】

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、
片貝デンタルクリニック(九十九里町)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、
片貝薬局(九十九里町)、やまと診療所(東京都板橋区)

【担当教員】

伊藤将子(福祉総合学部)、山本満智子(福祉総合学部)、井上映子(看護学部)、
島村龍治(看護学部)、光本篤史(薬学部)、佐々木英久(薬学部)、
溝口優(薬学部)、中村洋(薬学部)

【受講生の声】

- このような状況でも実習をさせていただいただけありがたいと思う。他学部と他職種について実地実習ができるのは貴重な体験のため、現場に出た時に学んだことを踏まえた行動ができるようにしたい。
- メンバーが良く、他の学部の人と仲良くなれて嬉しかった。また、普段では関わることのない職種の人と学生のうちに関わることができ、自分の将来の財産になると思った。
- 経験のなかった歯科医院や訪問歯科での研修を行うことで、より多くの専門職の役割や連携体制について学ぶことができた。
- 自分以外の職種をみることで、自分の専門職種が何ができるのか?ということをもとに改めて考えるきっかけとなった。
- 自分の専門分野以外の知識を深める良いきっかけになった。改善したい点として、自分の専門知識をもっと深め、他職種と話し合いする時にスムーズに進められるようにしなければいけないと感じた。
- 普段、薬学領域を中心に勉強していたため、他職種への理解が不足していることに気づくことが出来た。将来、チーム医療の一員として働く際に、チームに良い影響を与えられるよう他職種の職能についても理解を深めていきたい。

【プログラムを終えて】

コロナ禍の中、実践IPEを実施できたことに安堵しています。感染症対策として実地研修を短縮しましたが、学生たちは例年にまして貴重な学びを持ち帰り報告してくれました。実践IPEに参加した学生たちがこの経験を活かし地域の医療福祉や多職種協働の中心的存在となることを期待しています。最後になりましたが、本プログラムを実施するにあたりご協力頂いた全ての方々に厚く御礼申し上げます。



薬草図鑑



城西国際大学薬学部では、地域で信頼され活躍する薬剤師を輩出する教育が進められています。医薬品の中には、薬用植物から見出されてきた成分を基原とする「くすり」や、いくつかの生薬を組み合わせで成り立っている「漢方薬」などがあります。

地域の方々に広く薬用植物の知識をご紹介することにより、地域に暮らす皆様が「健康」や「食」、「薬草」や「くすり」に関して、より一層ご理解を深めて頂くことを目指して、2018年4月から薬草図鑑（月刊）を作成し、地域連携推進センターのHP上で発信しています。また、地域の商業施設「道の駅 みのりの郷東金」でも紹介しています。

薬草図鑑URL

<https://www.jiu.ac.jp/clics/medicinalplant/>



2020
年度

コミュニティカレッジ講座

実施一覧

2020年度コミュニティカレッジ講座は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み一度は全て中止しましたが、自宅で受講できる講座として通信・DVD配付による2講座を実施しました。秋学期には、春学期を踏まえて通信・オンライン（同時双方向型）・オンデマンド動画配信による5講座を実施しました。

【春学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数	実施方法
俳句講座	小林 せつ子	22名	全3回	通信
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	13名	全3回	DVD配付

【秋学期】

講座名	講師	受講人数	講座回数	実施方法
English Communication	市山 マリア しげみ	9名	全10回	オンライン
色鉛筆で描く水彩画	蓮池 孝志	13名	全3回	通信
身近に感じる毛筆講座	小泉 由利	12名	全3回	通信
俳句講座	小林 せつ子	27名	全4回	通信
世界遺産の不思議と魅力	片岡 英夫	11名	全3回	オンデマンド

コロナ禍で2020年度の城西エクステンション・プログラムの開催を中止しましたが、入構禁止が解除されたことを受け、感染予防対策を十分に施し10月より講座を開催することとしました。

講座は二通りの方法で実施され、会場参加講座（会場／城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス）とオンライン講座（同時ライブ配信）で行われました。感染予防対策徹底のため、会場参加講座は定員を50名までとし、受講人数を会場定員の1/3以下にしたうえ十分な間隔を確保しました。

オンライン講座での実施を受け、千葉県東金市の城西国際大学東金キャンパスも受講生募集の案内をしました。

【講座名】 ビジネス観点で読む歴史”明智光秀”



【日 時】 10月31日（土）14：00～15：30

【講 師】 波多野 聖（藤原 敬之）

【概 要】 歴史にアプローチを行い、歴史を読む道具として”ビジネス観点”を積極的に用いるのが本講義の特徴です。『ダブルエージェント 明智光秀』をテキストに歴史上の人物・明智光秀を取り上げ、その異様な早さの出世の謎を探りながら戦国時代最大の謎とされる本能寺の変までを描くに当たり、どのように仮説を形成したのかを述べました。テキストの骨格である国体論では政治学者・丸山真男の著述や日本古来の宗教観なども幅広く紹介されました。



【講座名】 佐藤可士和が解説する『佐藤可士和展』@国立新美術館のみどころ



【日 時】 11月28日（土）10：30～12：00

【講 師】 佐藤 可士和

【概 要】 株式会社博報堂を経て、2000年に「SAMURAI」を設立。以来、「ユニクロ」「セブン-イレブン」など、幅広い領域におけるブランドを構築、プロジェクトを圧倒的な成功に導いてきました。革新的な戦略の背景には、「課題」「コンセプト」「ソリューション」3ステップの周回デザインがあり、それらを体感する絶好の機会である展覧会について本人みずからが解き明かす講座となりました。



ライフスタイルに関する動画

地域連携推進センターでは、「コロナ禍においても地域の皆様のお役に立ちたい」と考え、「2020 ALL JIU コラム～新型コロナウイルスに負けないライフスタイル～」の連載を2020年7月より開始しました。

第1回

これまでの食生活と これからの食習慣

担当：酒井 健介 教授
(薬学部)



新型コロナウイルス感染 (COVID-19) について、食生活に関する公的機関が公表している情報を紹介します。こんな時期だからこそ、自らの食生活を見直すきっかけにはいかがでしょうか。

第2回

子育ての新機軸 3つのアイで感染を予防しよう

担当：倉田 新 教授
(福祉総合学部)



コロナ禍での子育てをどう乗り越えていくのか。これからの子育ての新機軸、夫婦や家族の在り方、笑顔で過ごすことの大切さについて、日本のフレーベルと言われた倉橋惣三の言葉をもとに考えます。

第3回

ロコモを予防しよう!

森藤 武 教授・谷内 幸喜 教授
(福祉総合学部)



ロコモとはロコモティブシンドローム略で、加齢とともに筋力や関節、骨などの機能が衰え、立ったり、歩いたりする能力が低下していることです。今回は、足の筋肉のトレーニングであるロコトレ(日本整形外科学会が推奨)と、猫背予防の効果が期待できる戦士のポーズ(ヨガのポーズを一つ)を紹介致します。

第4回

犬とのふれあいがもたらす恩恵 ～健康的な生活へのヒント～

担当：柚山 香世子 准教授
(看護学部)



コロナ禍のストレスをどのように緩和していますか？身近な動物(犬)とのふれあいの影響について、アニマルセラピー活動を展開されている佐藤志保さんにお話を伺いながら、健康的な生活について考えます。

第5回

アフリカの焼畑農耕民 ベンバ族のムラでの経験から

担当：名本 光男 准教授
(環境社会学部)



中央アフリカに暮らす焼畑農耕民ベンバ族のムラで、未知の病気に罹患した時の経験を通して、新型コロナウイルスを考察してみました。

第6回

新型コロナウイルスに関する 英単語

担当：Kevin Clark 教授
(語学教育センター)



新型コロナウイルス感染症の流行下で役に立つ英語について学びましょう。よく耳にする単語・フレーズ、病院での表現等を、図を交えながら説明します。

QRコードから全ての動画をご覧いただけます!



2020年度 主な地域連携活動

名 称	実 施 期 間
四方木地区活性化プロジェクト	2020年3月～12月
N95マスク等の寄付	2020年4月～5月
東金産オリーブ茶プロジェクト	2020年4月～6月
鴨川松島再生プロジェクト	2020年4月～9月
両総土地改良区農業用水汚濁水質分析	2020年5月/7月
地域活性化活動自主ゼミ「ど・ゼミ」	2020年6月～2021年2月
東金市国民健康保険医療費分析の協働	2020年6月～2021年3月
大網高校との「エゴマ」プロジェクト	2020年8月
千葉県助産師会 勤務助産師部会 研修会	2020年8月
HIV陽性者の在宅療養を地域でささえていくために	2020年9月
令和2年度 埼玉県保育士等資質向上研修	2020年9月
「おうちで出来る親子の遊び」動画を配信	2020年9月～11月
「JIUのクリスマス」子ども向け番組動画を配信	2020年9月～12月
安房国まちづくり塾	2020年10月～12月
海を越えて創る、私たちの日韓交流プロジェクト	2020年10月～2021年2月
高校講座「語学をマスターしグローバルに働きたい」	2020年10月
市民公開講座 どうにかしよう!その膝の痛み	2020年10月/2021年3月
クラブツーリズム(株)お座敷列車貸切企画	2020年11月
旭市福祉事業所と福祉総合学科学生との交流会	2020年11月
松尾高校 予防講座	2020年11月
横芝光町パラスポーツ教室ボランティア	2020年11月
JR東日本「駅からハイキング」	2020年11月
思春期教育<日向小学校、成東東小学校>	2020年12月
通信制健康教室	2020年12月～2021年3月
認知症サポーター養成講座	2021年1月
サービスマナー研修会	2021年1月～2月
東京都看護協会助産師研修「周産期メンタルヘルス」	2021年2月
松戸市介護予防教室	2021年2月
鴨川モニターツアー参加者と市民のワークショップ	2021年2月
「いすみ鉄道」プロモーション映像を学生が制作	2020年度
地元高校生と協働した「大原駅壁画」製作	2020年度
こどもたちが自然を育み・学ぶ、「菜の花塾」を主催	2020年度
道の駅の商品ラベル制作	2020年度
柚子精油の水蒸気蒸留と有効活用の模索	2020年度
道の駅「みのりの郷東金」での薬草に関する啓発活動	2020年度

詳細はHPをご覧ください。

